

様式1（視察用）

## 会派行政視察報告書

平成29年度会派 青雲倶楽部 の行政視察研修を、平成29年11月27日（月）及び28日（火）の1泊2日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

平成29年12月27日

名取市議会議長 郷 内 良 治 様

会派名 青雲倶楽部

代表 山 田 龍太郎



### 記

1. 期 日 平成29年11月27日（月）～11月28日（火）
2. 参加人員 3 名 議長 郷内 良治、議員 山田龍太郎、  
議員 相澤 祐司
3. 視 察 先 （1）福井県坂井市  
（2）石川県白山市
4. 行 程 表 別紙のとおり
5. 調査事項 別紙のとおり
6. 所 感 別紙のとおり



# 平成29年度 青雲倶楽部視察研修行程表

日程	行程	視察先及び視察項目	宿泊
11/27 (月)	仙台空港(9:30発)⇒(10:40着)小松空港→→小松駅(12:07発)→→ <div>13:30~15:00</div> 坂井市議会視察……丸岡駅(15:22発)→→金沢駅 (12:42着)丸岡駅…… (金沢市内宿泊)	<b>福井県坂井市議会</b> 所在地 坂井市下新庄1-1 電話番号 0776-50-3001 (事務局) 調査項目 1 三国湊町屋活用プロジェクトについて	<b>ホテル金沢</b> 所在地 金沢市堀川新町1-1 電話番号 076-223-1111
11/28 (火)	金沢駅(8:55発)→→(9:06着)松任駅…… <div>9:30~11:00</div> 白山市議会視察…… 松任駅(11:30発)→→(11:42着)金沢駅(11:56発)→→(14:26着)大宮駅(14:38発) →→(16:26着)仙台駅(16:43発)→→(16:56着)名取駅 (解散)	<b>石川県白山市議会</b> 所在地 白山市倉光2丁目1番地 電話番号 076-274-9580 (事務局) 調査項目 1 白山手取川ジオパークについて	

## 視察先及び視察項目

### 福井県坂井市市議会

#### ○三国町屋活用プロジェクトについて

#### 三国湊の歴史

『中世から歴史を持つ湊町として成立、商業活動の活性化とともに発展  
鉄道普及による衰退～現在』

三国湊の成立と発展で、現在の市街地の外観は江戸初期にできあがり、江戸時代から明治初期まで北前船の出入りする「北国七湊」の一つとして繁栄を迎える。

明治中期以降、鉄道開通とともに港湾機能は著しく低下、経済力も急速に商業力を失う。

大正に入り発動機船を導入して底引網漁業が始まり、商業から漁業へ転換した。

『戦災・自然災害にあわなかったため、湊町の繁栄を偲ばせる町並み景観とおおくの歴史文化遺産は、現在もなお残っている』

#### 三国湊での取り組み

#### ○歴史的建築物を含めた長年にわたる景観整備

- 1 旧森田銀行の修復（平成6年～平成11年）国登録文化財
  - 2 商屋「岸名家、梅屋家」購入（平成13年）
  - 3 三国景観町まちづくり条例制定（平成14年）
  - 4 旧岸名家の修復、一般公開（平成16年）国登録文化財
  - 5 街なみ環境整備事業（平成17年～平成25年）
  - 6 住宅修景助成事業（平成17年～）
  - 7 三国湊町家館の完成（平成18年）
  - 8 坂井市景観条例制定（平成20年度）
  - 9 三国湊町屋プロジェクト（平成25年度～平成27年度）
- ・一般社団法人三国会所が設立（平成24年）

平成13年に三国町商工会、観光協会を中心に、みくに歴史を生かすまちづくり推進協議会（三歴協）、が設立される。この三歴協が母体となって、平成

22年に創設された三国湊「帯のまち流し」実行委員会の活動を継承し、設立された。

#### 【主な活動】

三国湊町家プロジェクトの他、レンタルサイクルや街中散策などの回遊、新しい秋の風物詩「帯のまち流し」や、旧森田銀行、旧岸名家館等の指定管理など多岐にわたる。

※平成28年度ふるさとづくり大賞「総務大臣賞」受賞

#### 『三国湊の直面する課題』

- ・急加速する高齢化と人口減少

三国の人口平成12年23,618人、平成17年22,936人、平成22年22,003人、平成27年、21,072人、15年間で2,546人 約11パーセントの人口が減少

高齢化率の上昇、平成12年 約21パーセント、平成17年 約22パーセント、

平成22年 約25パーセント、(今後一層の上昇が見込まれる)

- ・まちの空洞化、空き家、空き地の増加

旧市街地から郊外へまちが拡大、若年層を中心に転出、人口密度の低下、高齢化の加速

- ・活力の低下

人口減少と高齢化によって、まちの最大行事である「三国祭」の、山車番の負担が増大

- ・まち並み景観の喪失

#### 『三国町家プロジェクト』

福井県の「ふるさと創造プロジェクト事業」に採択されスタート

(平成25年～3カ年)

運営主体：三国会所

関係団体：地元住民・坂井市・東京大学・福井大学・PTPなど

事業内容：空き家・空き地の改修と活用や回遊づくり・街並作りと情報発信

※27年度で終了したが、いろんな人が店を開いたり入居してきている。

補助金に頼らないまちづくりを福井大学と協同で取り組んでいる。

#### 『プロジェクト活用物件』

- ・現在の古民家6軒の空き家改修と利活用に今後も物件を増やす計画である。

## 『プロジェクトの成果』

6軒の空き家の改修と利活用、都市公園の改修等により観光客数の増加。

平成26年度64,000人    平成27年度81,000人    126%増  
新たに6名の移住者。

東大との共同研究による「三国まちづくりビジョン」を策定。

## 「アーバンデザインセンター坂井」整備事業

次へのステップとして、地域の様々な課題に対し、行政、住民、公的団体、民間企業、大学等が協力し、解決するために行動する組織を平成30年春の設立を目指し、設立準備委員会を開催。

〔主な参画団体〕

坂井市、地元区長、地元住民、坂井市商工会、坂井市観光連盟、えちぜん鉄道、金融機関、民間企業、東京大学・福井大学など。

## 「考 察」

少子高齢化による人口減少と、旧市街地活性化対策の取り組みとして古民家を修復し、新店舗を再生した賑わいづくりが順調に推移しており、今後取り組み拡大を計画策定中でありこれからの成果が期待されるところである。

本市の復興まちづくりは新しく再生することで事業が進められているが、どれほどの人口となるのか、賑わいをどのようにつくりあげていくのか、また、名取駅前再開発ビルを生かした賑わいづくりの成果が期待され課題でもある。

## —— 市の概要 ——

白山市は、平成17年2月1日、松任市、美川町、鶴来町、川内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村及び白峰村の1市2町5村の合併により誕生した。

白山市は、石川県加賀地方の中央部、県都金沢市の南西部に位置している。白山国立公園や県内最大の流域を誇る一級河川手取川、日本海など山・川・海の豊かな自然に恵まれ、海岸部から山間部まで、およそ2,700mの標高差と環境変化に富んだ市全域を「白山手取川ジオパーク」として日本ジオパークに認定されている。総面積は、754.93k㎡で石川県全域の18%を占め、市町村域としては県内最大の広さである。

地目別面積は、「宅地」2.4%、「経営耕地」が5.8%、「林野」が73.5%と白山ろく地域の森林が市域の大部分を占めている。全国でも降水量・降雪量の多い地域に属しており、特に白山ろく地域は全国有数の豪雪地帯である。

産業では、手取川扇状地の良好な土味を持つ農用地における「コシヒカリ米」や、白山ろく地域における「そば」等の生産が盛んに行われている。

商工業においては、積極的な企業誘致等により年間商品販売額、製造品出荷額等は、年々増加傾向にある。

伝統・文化・観光については、古くから平野部は物流等の拠点として、白山ろくのふもとに建立された多くの社寺の門前町として栄えてきた。市内には、白山を神体とする全国約3,000余社の白山神社の総本宮である「白山比咩神社」や「東大寺領横江荘遺跡荘家跡」等の史跡、「御仏供スギ」等の天然記念物「牛首紬」等の伝統工芸、「尾口のごくまわし」等の伝統芸能など、多くの有形・無形の文化財がある。豊かな自然を活かした観光施設も整備され、白山ろくにはスキー場や温泉が充実しており、四季を通じて「おかえり祭」や「ほうらい祭」など郷土色豊かな祭りやイベントが開催されている。

### 霊峰白山に抱かれた

#### 加賀の国 5つの宝

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. 豊かな恵みの源   | 霊峰白山  |
| 2. こんこんと湧き出る | 温泉郷   |
| 3. 手仕事のぬくもり  | 伝統工芸  |
| 4. 山と海の贈り物   | 豊潤な味覚 |
| 5. 古の足跡      | 歴史探訪  |

昭和37年(1962)には国立公園に指定され、高山植物の宝庫、日本有数のブナ林、多様な生態系、豊かで美しい自然が守られている。

白山は、古くから加賀の国の人々を導き、その神々しいまでの美しさで魅了し続けている。

#### <北前船がもたらしたもう一つの繁栄>

江戸後期から明治期にかけて、北前船の寄港地として栄えた美川地区では、海産物加工業が発展する。糠漬けや粕漬けの工場が、最盛期は40を超えてひしめいた。

#### <巨万の富を築いた北前船>

北前船は江戸後期から明治期に北海道と大阪を結んだ買積船、北前船が莫大な利益を得ていたことから、数多くの船主たちが住んだ橋立の集落は「日本一の富豪村」とも呼ばれていた。

※白山から日本海へと続く壮大な地形が生み出した

「白山手取川ジオパーク」

白山伏流水の恵みによる、お米やお酒

#### <小松の石文化>

小松では2,300年前に国内最大規模の玉づくり集落が形成されて以降、様々な地下資源である石材を活用してきた。これらの歴史が「日本遺産」に認定され、石の文化を伝えるエリアが観光スポットとして注目を集めている。

## —— 白山手取川ジオパーク ——

### <ジオパークとは> (地球の公園・大地の公園)

- 大地の成り立ち（地球の活動）を主な見所とする自然の中の公園
- 大地の上に生きる人間や生物の営みと、歴史、文化、産業、防災等を教育や地域の活性化に活かす取り組み。

#### ジオパーク 3つの目標

- (1) 大地の成り立ちの保護
- (2) 大地の成り立ちを用いた教育・科学の普及
- (3) 大地の成り立ちを用いた地域の活性化

白山市は、すでに平成11年9月白山手取川ジオパークが「日本ジオパーク」に認定された。日本ジオパーク認定は国内に43地域が認定されている。そのうち世界ユネスコジオパークは8地域である。(全国の10%を越える市町村がジオパーク活動)

なぜジオパークを進めるのか。平成17年2月1日8市町村の合併が契機となって、自然、歴史、文化、産業が異なる自治体を一体感・連帯感を持って新しい広範囲の自治体作り、新しい魅力、人づくりを進めて行くための市民共通の目標と定めたことになる。

### <白山手取川ジオパークの経緯>

- 平成22年3月議会において、ジオパーク推進に関する一般質問がなされ契機となった。
- 平成22年10月1日庁内にジオパーク推進室を設置することとなった。
- 平成22年11月18日白山手取川ジオパーク推進協議会を設立。
- 平成25年・平成27年世界推薦申請を行うも見送り。(2回とも)
- 平成27年日本ジオパークに再認定。

白山・手取川・日本海この山里海における水の循環があり、山が浸食されて手取川によって石が運搬され、里に堆積される。いわゆる自然の循環が広大な市土面積755k㎡の白山手取川ジオパークとなっている。

浸食（けずる） 運搬（はこぶ） 堆積（ためる）

### <テーマ>を記せば「山—川—海そして雪 いのちを育む水の旅」

「大地の物語」と「水の旅//石の旅」との中で生まれた地形と自然。そして「市域の人々との生活」との関わりを学び、体感することができる場所。



### <ジオパークの効果>

#### (1) 保護・保全に関する活動

国立公園や文化財の管理機関との連携、砂防を含めた総合土砂管理

#### (2) 調査・研究

研究機関との連携による研究活動の推進、研究成果など科学の普及  
地質・化石調査・文化調査

#### (3) 教育活動

ふるさと学習として、ジオパーク遠足、学習支援員による授業、講演会の開催で水の旅学、大学生の実習受入、大学実習との連携

#### (4) 普及啓発活動

ジオパーク宣伝用パンフレット、広報誌の発行、イベント参加、ケーブルTV番組の制作

#### (5) ツーリズム

説明版や案内表示（和英併記）の充実、既存案内板の改修、ビュースポット等の整備、寄り道パーキングの整備、ジオツアー職業としてのジオガイドの確立を目指す。（ガイド養成講座）

#### (6) ネットワーク活動

世界とともに（さまざまなジオ関係催事に参加し発表を行う。）

アジアパシフィックジオパーク大会、ジオパーク全国大会、国際ユネスコ会議

### <ジオパークの効果>

#### (1) ふるさと学習（地元学）機会の増加

自分の地域を学ぶと同時に、他の地域のことを理解する。それは、地域資源の再評価・再発見つまり自分の地域にあるものを見つめ直す。郷土愛（一体感の醸成）、教育文化の振興、地域づくりの活性化。

#### (2) 現状と今後の展望

日本ジオパーク認定から世界ユネスコジオパーク認定を目指している。しかし、その審査は評価が厳しくなっている。

たとえ話で、低い山だと思って登っていたら、山が高くなってきた。でも歩き続ければ必ず山頂に立つことができる。山頂に立つことが目的でなく、山頂に立ち続けることが大事。

<今後、ジオパーク関連活動として取り組むこと>

- (1) 防災活動・環境保全活動・資源保全活動・国際貢献活動・スポーツ活動・教育活動・大学連携活動・ジオツアー活動・商品開発活動と全てにわたりジオパークに結びつけて、市民の意識高揚を図り市土の発展に繋げるとしている。

白山手取川ジオパーク 山一川一海そして雪

(平成23年9月5日、日本ジオパーク認定) いのちを育む水の旅

白山市全域をエリアとする白山手取川ジオパークでは、白山から手取川、日本海へ至る中で繰り返される「水の旅(水循環)」と「石の旅」によって、地域の大地、多種多様な自然、歴史、文化、産業、人の営みが育まれてきました。火山や化石、峡谷、扇状地などの「大地の遺産」を保全するとともに、市内にある数多くの資源をつなぎ、学び、楽しみ、地域の新たな魅力として地域振興に活かすため、ジオパーク活動を推進している。

文化創生都市宣言

平成11年9月・白山手取川ジオパークが日本ジオパークに認定。

平成12年7月・白峰地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定。

平成13年4月・岐阜県白河村と「観光都市交流協定」。

平成13年6月・金沢市と「観光連携協定」を締結。

平成15年3月・北陸新幹線金沢開業を追い風に、食や特産品等のPRにも注力。

## — 考 察 —

全国的に少子高齢化や人口減少、環境問題の深刻化、地域の安全・安心や健康への意識の高まりなどを背景に、市民ニーズは多様化してきている。

また、社会・経済情勢が大きく変化し、かつてのような成長・拡大が期待できない昨今、地方自治体においては、住民との協力体制の強化や行財政運営の一層の効率化など、経営的視点に立った新たな取り組みが求められている。

とは、名取市第五次長期総合計画策定主旨の中に謳われている。そして計画の役割として

- 堅実に成長する都市を確立するための「地域経営の総合指針」
- 7万市民の「市民力」を結集するための「市民と行政の共通目標」
- 「選択」される自治体を目指すための「市の主張・情報発信」である。

これからの名取市の発展は、自分たちの街を見直し、地域の特性・魅力はどういったところにあるのか。自然環境、歴史遺産、産業を新たに見直し、それぞれをリンクさせて名取市の発展に繋げていくこと。市民と行政の共通目標を定めて「わかりやすく親しみの持てる計画」しっかりとした目標を市民に示すことが求められる。

白山市の取り組んでいる「ジオパーク」構想（大規模）とまではいかななくても、取り組みの発想は大いに参考になる事例である。

今後、将来にわたって人口減少社会に突入していくこととなる。近隣自治体との競争いわゆる住民（人口）の取り合いになる。名取市独自の施策を打ち出し「住みたい街」「選択される自治体」を目指して、市民と共同で作り上げなければならない。